

田邊町報

第七號

昭和六年一月十五日發行
 京都府綴喜郡田邊町大字
 田邊小字北川第三十番地
 編輯兼發行所 西岡正延
 印刷所 吉山市松
 京都府綴喜郡田邊町役場

年頭に當つて所懐の一端を陳ぶ

田邊町長 吉山虎三

改曆に當り謹んで 寶祥の無窮を壽ぎ
 奉り併て町民諸彦の御繁榮を祝福いた
 します。

(一)
 不景氣の聲で迎へました昭和五年は、遂
 に不景氣の聲で送りおふせました。

そうして新しく來ました昭和六年の新春
 も、同じく不景氣の中に迎へねば、なら
 ない状態であります。

さて、本年の景氣はさうであらうか、之
 は何人も早く好況に轉ずる事を切望して
 止まないものであり、また不景氣も既に底
 をついたから、漸次恢復に向ふことであ
 らうと思ふのはあります。然るに、何分
 にも之は世界全体の經濟關係に俟つもの
 であつて、日本だけでござる事も出來
 ない方面もあります。輕々に豫斷
 し去る事は出來難いのであります。

或は世界的不況の影響や、支那に於ける
 銀の暴落、インド關稅の引上げ等を、重
 く視る人もあり、又は反對に不用意なる
 金解禁の結果だとして、之を攻撃する人
 もあり、其の他種々の見解が發表せられ
 て居りますが、それは暫く識者の研究
 に任ずるとして、私等は目下疲弊の極に沈
 んでゐるこの農村を、如何にして復興せ
 しめるかと言ふ事、特に我が田邊町の現
 狀に對し、吾等是如何に善處すべきであ
 ると言ふ事を、考究しないでは居られな
 いのであります。

(二)

之について、私は昔青砥藤綱アオト フジツナと言ふ人が
 、夜間過つて河の中に落した十文の金を
 拾ふ爲に、三十文の金を費して惜しまな
 かつた話を思ひ出すのであります。

藤綱の考へでは、此十文を河の中へ捨て
 ば、おけば、永久に此の十文は失はれてし
 まふのである。然るに今この十文を拾ふ
 爲に三十文を費した處で、この三十文は
 自分の手から搜してくれた人の手に渡る
 だけで、此の金が世の中から全くなくな
 るのではない、さすれば拾ひ出した十文

だけは、より多く此世に生きかへること
 になつて、結局國家の爲であると言ふ事
 であります。

世が今日の様に不景氣になりますと、只
 々緊縮の一天張りでこんな時に働いて腹
 を減らすよりも、ちつとして飯の一碗も
 しまつする方がよいじやないかといつた
 様な、思想も、起らぬではないのであり
 ます。けれ共私は、消極にも節約にも程
 度があつて、かういふ様な意氣の銷沈し
 た態度になれば、我田邊町將來の發展は
 おろか、目下の不況を切り抜ける事さへ
 も、困難であらうと思ふのであります。

もとより今日の時勢に、緊縮の必要な事
 は、論のなきところであります。けれ共
 緊縮の縮にばかり力を入れると、結局萎
 縮と言ふ事になつてしまひます。緊縮の
 眞意は決して萎縮ではない筈であつて、
 上の字の緊に力を入れて、大に緊張する
 氣分を、振り興してもらいたいと希望せ
 ざるを得ないのであります。

青砥藤綱が、三十文を費消しても、結局
 四十文になつて歸つてくるには、惜しま
 ずそれを使はれたことは、私達の大に學
 ばねばならぬ所であるまいかと思ふので
 あります。

(三)

流れる水は腐らずと言ひ、犬も歩けば棒
 に當るとも言ひまして、一生懸命働いて

ある中には、何かのよい利益をも見出す機会に恵まれるものであります。

此の事は、皆さん一家の私經濟に於ても亦田邊町と言ふ一大家族の公經濟に於ても、全く同じ道理でありまして、決して手を束ねて棚からぼた餅の落ちるを待つ様なことをしておつては、ならないと信ずるのであります。

私は平素より町民諸君の負担の軽減について、いろいろと苦心を致して居り、殊に只今の如き經濟状態に於きましては、新しき豫算を編成するに當りまして、此の点に渾身の至誠を傾倒いたして居るのであります。

然し乍ら前にも申し上げるやうに、たゞ負担の軽減のみを行ふて、その上は手も足も出さず、ちつとして居ればよいと言ふ風の方針ではなく、いよ／＼不況に對する吾等の抵抗力を減殺するのみならず今日の不景氣に據る、町民諸君の失業苦を救済することも、全く出来ないことになるのであります。

一方に負担の軽減を圖ると共に、他方この失業による苦痛を救済せなければならぬので、この一見矛盾する二つの必要を両方ともに満たさねばならぬ所に、町村當局としての、最も大なる苦心がひそんでゐるのであります。此点諸君等の御諒察を願ひたいと思ふのであります。

(四)

これに就きまして當面の問題は、舊冬以來の懸案にかゝる、一休寺道路の擴張修繕の工事であります。

該道路は、全長三百余間の擴張工事の、豫算が四千五百圓であります。

而してこの内半額は、西村府會議員の御盡力によりまして、府費の補助を受け、残りの半額を我が町が負担致すのであります。

所で斯る新事業は、時節柄見合すべきものではないかと言ふ御意見が、一部の方にあるやうにも承つて居ります。之は御無理のないことで、私どもも事情が許すならば、之を繰延べしたいと思ふのであります。然し乍ら此の事業の爲に今差し當つて費用を追加徴収する事を致すのではなく、四年度の精算殘金と廢道處分の金と五年度の節約金によつて、實施するのであります。

しかも四千五百圓と言ふ此工事の費用は何處に落ちるかといへば、全部田邊町民諸君の、ふところを肥す外に行き所がないのであります。私は此の事業は青砥藤綱の三十文を費して、四十文を得られたよりも、尙益する所が多い事になりはせぬかと考へて居るのであります。

由來我田邊町としましては、電車の便は開けましたけれども、他都市、又は他町

村の人々を誘致する、特別の目標や設備に乏しく、獨り一休寺に於きましては、歴史といひ、風致といひ、實に立派なものであつて、之こそ田邊町の最大なる、誇りでなければならぬのであります。

偶々今春四月には一休禪師の、四百五十年の追善法養が行はれることになつております。

而して佐上知事閣下は、禪師の徳に歸依せらるゝこと深く、公人としても、私人としても、一休寺のよくなる事については、非常に斡旋の勞を、とつて居つて下さるので御座います。

斯る絶好の機會は、またと容易に求め得らるべきものでありませむので、之こそ田邊町に恵まれた天の機會とも申すべきものと信ずるのであります。

昔から「機に臨み變に應ずるの敏」と申しますが、折角の此の機會を空しくし、寶の山に入り乍ら、動けば腹が減ると言ふ様な、因循姑息なことは、申して居るべきではないと思つて居る様な譯であります。

ドウカ、親愛なる町民諸君も、よく此點に御理解下さいまして、町全体の公益といふ立場より、全町一致して、これの完成を期せしむべく、御援助あらんことを切望するのであります。

新年に際しまして、種々申上たい事もあ

りまするけれ共、年頭の辭にかへて、聊か所懐の一端を申述べたわけで御座居ます。

農家實行組合建設の

必要に就て

愛 農 生

今の農村不況切抜け策に關し、太田技手殿が本誌前號で、述べられた御説は、至極同感に讀了致しました、そして私がついで痛感したのは「農村實行組合建設の必要」でありますから、茲に聊か其所見を開陳したいと思ひます。

此の農家實行組合と言ふのは、大阪府が先年來府下の農家に、推奨勵行して、多大の好成績を擧げつゝある方法で、不文の簡息救済双互組合とでも名付くべき、「申合せ」であります。兎角形式にのみ捕はれた六ヶ敷い定め事は、概して永續性が無く、多く途中で消え勝ちのもので、殊に農家の如き比較的單純の支持する方面では、猶更此傾向あるを免れませぬ。

ソコで前記實行組合では専ら此点に留意し、農家の誰れでも、容易に實行出來、そして永續きのする様に考へた方法なのであります、でありますから此組合には原則として、四角張つた規約書も不要

なら、専任理事者も、會費も、帳簿も必要が無いのです。唯附近の氣の合ふ同志十人乃至、十五人が寄合ふて、一組合を作り以て農家の實行上、何事でも共同方針を採る事を申合せ、そして夫れを實行さへすれば目的が達するのです。

ツマリ組合員全部が、組合員なるご全時に、又全部が理事者であつて、夫々役割を分担し、組合員同志の間に、何等上下の區別なく、平等の權利義務を以て、始終すべきを理想とするものであります。然らば其の目的たる『農業の實行上、何事でも共同方針を採る申合せ』とは如何なる種類を指すかと申せば、其の地方部落の情勢習慣により、多少の差はありますが、先づ以て本作間作物共、同一物の栽培、全一種子の買入れ、全規の耕作法、全規施肥法、全規の播種植付及收納法、農具の改廢及購入上の全一行動、肥料の蒐集と配給、農業改善上の全一研究、農穫物の共同販賣、農用品及日用品の共同購買等が主であります。

所詮、研究にも實行にも、販賣上にも、購買上にも、分割的各個々々の行動は、凡てに於て勢力尠く、冗費多く且つ不便不利にして、兎角消極的引込み思案に流れ易きに反し、衆合的共同の行動は、勢力ありて且つ費用の節約となり、万事に利便利得なる等に起因し、日常進取的の

意氣込を以て、眞の活動的氣風を養成すること、爲り、此の氣風は懸て、地方農事の改良、農家の福音たるに到るので、あります。筆の序に其の施行上に就き、凡例により説明しますと、

先づ本作間作の全一物栽培を期する事に就ては、組合員が夜間でも時を極めて、便宜所定の場所に集合し、其の組合が、次期に主として作らうとする本作間作、両方の種類を協定し、次で夫等種子の購入を必要とする場合には、最も確實に又多産有利の種子を協議選抜して、各自所要量を申出で、其の量に準じて組合へ出金し、組合は夫れを一括して注文を發しをして着荷と同時に、最初の申込量宛各自へ配給する順序であつて、兎に角組合の注文量は、各個々分割の量と違ひ、相當大量を成す事ですから、自然割安に買付け得る道理になります。

集會は必要に應じ何時でも、之を催して或は耕作は必ず深耕法と定め勵行することか、何々に對し施肥は金肥を何程とし、金肥以外のものを大凡幾何と極めるとか、又播種植付は何月何日を大体豫定の日と定めるとか、收納は先づ何月何日頃と目安を立て、そして收納法及乾燥、藏置の方法は何法に據るべしとか、農具中の一二に能率倍加の新式のもの發賣されたる故、不取敢幾基購入して順番に使用する

事を協定したる場合、一人當りの出金を爲すとか、又組合員全部が各自毎家に備へ付けんとする小農具購入の場合、種子購入の時と同様、組合で一括注文を發するとか、そして更に進んでは、斯うして多數勢力を有する統一された收穫物を、組合にて一括有利に販賣の手段を採り、一面、農用品日用品の類も亦組合が一括して有利に共同購入の上、各自の希望量に準じ配給するなども、當然附帶の目的となるのです、しかも組合は折にふれ、一席農事先覺者を聘して、新智識を求むるなども至極妙案で、總じて各個の意思の疎通した集合の力には、何物も打ち勝つ事が出来ぬのであります。

之が聽て善良の農民と富有の農家とを築き上げる現時の捷徑であり又、嚮導であると思ふのであります。

臨終、本組合の性質が叙上の通りでありますから、組合員は孰れも氣の合ふ者同志を選ぶ事が肝要で、そして一組合の人数は先づ十人か精々十五人位までを最も適當無難の様思はれます。ツマリ人数が餘り多いと、兎角意志の統一が六ヶ敷なるからであります。

それから本組合の運用に當り、原則としては規約も帳簿も不要で、而して組合の仕事は前述の通り組合員各自分担の所謂一人一役で事足るにしても、唯實際の施

行運用上に一巻の記録位は必要ですから、最初の間、先づ農會などが最も周到懇切に手引きされるれば申分ないと考へます。而して筆紙とか郵税とか一般經費に、充當し又殘餘を以て基本金を作る爲め、組合員各自が「握り米」の方法を實行するなどは、最も時宜に適して良法だと思ひます。

此「握り米」とは勤儉貯蓄の一法として古來九洲或は東北の村邑に於て勵行し來つた方法であります、之を本組合が應用する場合には、組合員の家の軒先きに一握りの白米の入る程の太竹で作つた筒を下げ置き、毎日定めた時間迄に其中へ一握りの白米を入れるのです。

夫れを當番の組合員の一人が、毎日廻り集めて一時保管し、其量一斗位に達したら時價に賣つて金錢に替へるのです。

一見悠長でスピート時代には迂濶だど、嗤ふ方があるかもしれませんが、之は嗤ふ方が迂濶であつて、丁度明るい電燈は知つてゐても、一面に一滴／＼と集つた水の衆合勢力が然らしむる所以を悟らぬと、寔に遺憾の次第と思ひます。

要は現今行き詰つた各社會の眞の救濟は何事も生温い抽象的の論說では、到底効果はありません。況んや生活振りの單純にして其の業の多角形なる農村に於て殊に然りです。今は百千の論議討説よりも

一の實行の時であります。本町には幸ひにも完備した町農會が嚴存し、加へて府立農事試験場園藝部の所丘地でありますから、私は他町村に卒先して、農村不況打開の範を示さるべきを確信しながらも茲に、愚見を弄し敢て同感同好の士に俟つ次第であります。

附言

農家實行組合の要目は町農會に於て充分調査御研究の筈ですから、同好の御方は直接同會へ御聞合せ篤と御相談ある事然るべきやに存じます。

編輯一滴

(完)

輝しい光明とゞもに昭和聖代の六年を迎へました、茲に皆様の芽出度御超歳を心より祝福致します。顧みますに昭和五年は特に印象深く刻まれたる金解禁斷行の一年であり、不景氣の聲、失業の嘔歌は萬里を逸し、多事なりしが爲に其處に多難の襲來に余義なくされ、上下戮力一致して改年の新年を慶福すると俱に新天地に活躍するの意氣に焔々起ちて居る事せう。狂奔走馬の如き過ぎし庚午の年に省みて、和氣鬢鬚たる辛未の一年を是非共意氣有る様に、わけて殺人的不景氣の形容詞をもつ現時の不況打開策に、吾人は擧つて賢慮を致されん事を祈つて止まぬ。

(年頭一室愚言)

未賀新年

併而諸彦の御萬福を祈上候



託兒所

北川學信記

保育園だより

夏の暑い日、野邊を通りますと、両親が
 畔道に置いた幼児の風車を友達として、
 遊んで居るのを氣にしつゝ、田植をして
 居られる姿。街を通りますと、スピード
 を出して走つて居る貨物自動車の後を追
 掛けて居る子供、指導者が無いが爲に、
 子供らしくない悪戯をして居る子供等、
 をよく見受けまます。こんな時私はいつ
 も「田舎の子供は不幸ダナ」ア……………
 と思はずには居れません。今世界各国
 も児童福利の施設は非常に發達しつゝ、あ
 る様であります。然しそれがいつでも、
 都會中心となつて、ごもすると田舎は置
 き忘れられて居る様な氣が致します。
 不遇逆境を轉じて、成功の動機とする丈
 けの、精力と意志を持つて居る大人であ
 りましたら、これは決して不幸な事では
 ありませんが、大人の保護の下でなけれ
 ば一日も生きて行く事の出来ない子供と
 しては、何といふ不幸な事ぞせう。學齡
 に達しますれば、都鄙を問はず小學校に
 入學して先生の暖い保護の下に、正しく
 伸びて行く事が出来まます、それ迄の、
 子供は一体誰が指導者となつて保護する

のでせう。勿論御両親が家庭教育をなさ
 る事は申上げる迄もありません。然し大
 抵の御方は家業に御忙しう御座います。
 御忙しくない方でも「家庭教育のみでは」
 といふ様な御考を御持ちになる方が相當
 多い様で御座います。

都會では勞働者の多い所には、常設託兒
 所があり、商業街には、幼稚園があつて
 幼児を保育して居ります。然し田舎には
 その施設がありません。これは子供等の
 爲に非常に残念な事でありまます。

農繁期は私達には割合に、餘暇の多い時
 で御座います。この餘暇を何とか有意義
 に過したいものだと常に考へておりまし
 たが、幸ひにも最近田舎に於ける児童保
 護機關として、農繁期託兒所開設の機運
 が到る所に勃興して參りましたので、

一は農家の方々の仕事の能率を増進し、
 二には幾分でも子供をよりよく伸ばす事
 が出来たらといふ念願の下に、短期間の
 保育園を經營さして戴いたらと思ひまし
 て、寺總代顧問の方々と並に、校長先生、
 區長さん等に御後援を御願致しました所
 御快諾を得、尙ほ特志の方々に保母とし
 て御奉仕下さる様御願ひ下さいましたの
 で、六月十一日から二週間經營する事に
 決定し園児を募集致しました所、父兄の
 方々もその趣意に御賛同下さつて、可愛
 いお子達を御寄託下さつた方が非常に多

く、日々の出席も保母の方々の御熱心
 よりまして、第一回としては相當よく、
 申込數六十八名延出席人員數七百二十八
 名平均出席五十二名の好成績を收めて、
 第一回を終りました。

第一回の終了後、父兄會を開いて、父兄
 の方々色々懇談致しました所、非常に
 力強い御言葉を頂きましたので、續いて第
 二回を開園する様に決心致しました。

第二回は十一月十六日から十五日間經營
 する事にし、父兄の中から委員の方五名
 を御依頼し後援者の方々と、色々御相談
 を御願する事に致しました。辻臺も幸ひ
 奈良電から拜借する事が出来。ブランコ

も新調して戴き、其上に前田先生や學校
 の先生方が度々御應援下さいましたので
 子供等も退窟せず、日々楽しく遊ぶ事が
 出来ました。今度は第一回の様に、漫然

と遊ばせるといふ事から一歩進めて、訓
 育すると言ふ氣分で、御預り致しました
 御世話させて頂くと一様に、自分の子供
 の様に可愛くなり、子達も終りを惜みま

したが、年末も迫つて來ましたので、名
 殘を惜みつゝ、十一月三十日に閉園致しま
 した。

第二回は、申込數六十六名、延出席人員
 數八百六十三、五名、平均出席數五七、五
 三名、出席率八割七步強といふ好成绩を
 得た事は、偏に皆様の御援護の賜とは思

ひますが、他面農村とし幼兒福利の爲、
 こういふ施設が最も緊要なものであると
 いふ事を裏書きして居るものではないか
 と思ひます。

大切な誌面を頂戴して、クドクド書き
 ましたが、皆様に御願したい事は皆様の
 御後援の下にこの小さい試みが、よりよ
 く發達し、農村文化施設としての使命を
 全ふし、社會淨化即ち佛教に所謂、成佛
 國土成就衆生の理想實現の一助ともなれ
 ば幸ひかと存じます。

どうか精々御鞭撻の程を御願ひ致します
 最後に御多忙中保姆となつて多々子供等
 の爲に一方ならぬ御骨折に預りました御
 婦人の方々、力強き御援護を賜はつた後
 援者の方々、御大切な御子達を御預け下
 さつた父兄の方々に満腔の感謝を捧げ
 て擲筆致します。(完)

篤名の士が當編輯部宛千代ゆるぎなき
 我みやこ田邊町、しかも曠古の歴史を
 歌詞に採り、寄せられたる田邊町歌と
 巍然として妖雲を壓するかの感を深か
 らしむるアノ大甘南備山の下に生ひ育
 ちし若きが爲の集ひ、若きが爲の生命
 に鉄より堅き義愛のこもる、奮起蹶然
 たらしめて惜しまない青年團歌の贈ら
 れたるを皆様に紙上御紹介申上ぐるこ
 どもに茲に全士に満腔の敬意を表しま
 す。



田邊町の歌

(郷土愛のほとばしり生)

一 休禪師の昔より

世に清淨の地と知られ

崇祖敬神較べなき

正義の郷土田邊町

正義の郷土田邊町

二

甘南備山に昇る日の

光に人の精神を磨く

五常の庭も清くして

平和の郷土田邊町

平和の郷土田邊町

三

木津の川水潤へる

城南の野は賑ひり

民の心も豊なる

富贍の郷土田邊町

富贍の郷土田邊町

田邊町青年團の歌

(甘南備山天狗寄)

一、 聞くや我が友曉鐘は

股々轟と響くなり

妖雲空に漲りて

魍魎魍魎は近づけり

起つべき時は今ぞ來ぬ

正義の力試さなん

二、

甘南備山下の熱血兒
 鍛へる氣魄誰か知る

懲那の劍我にあり

行く方拒まんものあらば

斬りて捨つるに何かある

忠魂義膽君見すや

三、

夫れ青年は國民の

乗れる大船棹さして

彼岸に向ふ船子なり

質實剛毅勤儉の

心の舵を握らずば

此の神命を如何にせん

河川漁業に趣味ある方々へ

雑魚採りに趣味をもたる、方々へ次の事
 を特に御注意ある様御知らせ致します。
 誰しもよくやる事ですが、川の流れにそ
 つてか、又は逆に網とか、簾を以て魚の
 流れるのを防ぎ其處へ「モンドリ」を受け
 て魚を取る、こうした事を俗に「うけモ
 ンドリ」とか又は「網モンドリ」とか言
 つておりますが、これが漁業法では、定
 置罟類漁業とかに該當するそうであり
 まして、これをなさんとせられる時には
 矢張り其の筋の許可がないと處罰せられ
 ます。其の筋の許可とは、免許鑑札がな
 ければならないのでありまして、既に網
 の鑑札を御持の方でも亦別に此の種の鑑
 札が要するのであります。
 此の免許鑑札は役場へ御出で下されば、
 手續を致します。

ピアノ寄贈者芳名

- 第三回卒業生 西川春三
- 第四回卒業生 平田ナヲ
- 第七回卒業生 村田太平
- 第九回卒業生 村田保
- 第拾二回卒業生 吉山孝一



學校のよろこび

校長 大江 肇

私は兒童を教養するにつきまして、日頃其の道にある私等同人の聲として、智識ばかりを授けるのが教育ではなく、うるほひのある情操を陶冶することが、寧ろ知育よりも必要なことは、特に近頃の世相に對して一般に認められて居るところであります。

本校に於ても、此の情操陶冶の方面に就ては、常に留意してゐるところですが、中にも音楽に對する趣味を養ひ、正しい聴方、歌ひ方を練習しやうと努めて來ましたが、近頃の歌曲の多くは、ピアノを基として作曲された教材が多い爲に、オルガンだけでは不十分な点が多く、何とかして、ピアノを一台ほしいと思つておりましたところが、此の度吉山町長

の斡旋と學務委員の方々の御盡力によりまして、本校出身者中他に出て成功しておられる方々に御寄附を願ひましたところ皆母校の爲ならばと快く御承諾して下さつて、別記五名の方々から日本樂器會社製の山葉三號定價壹千百圓の品に附屬品一切を附けて寄附して戴きました。之で年來の宿望が達したわけで、職員生徒共に大變嬉んで毎日練習致して居ります。今後一層此の情操教育の方面に努力を致し寄附者の御芳志に報ひ度いと存じて居ります。

特にピアノ購入に就ては、吉山孝一氏の特別の御奔走により、多大の便益を計つて頂いた事を併せて御報告申上ます。此處に寄附者の御芳志を一般に御披露申上げて、學校の喜びをわからたいと存じます。



兵 事

徴兵検査

本年度徴兵適齡者は明治四十三年十二月二日より明治四十四年十二月一日までの間に於て出生された方です。

戸主は家族中右期間に出生された者ある時は適齡届を一月中に本籍地の市町村長

に届出でねばなりません。届出で未済の方は至急本籍地の市町村長に届出をしない、本人戸主なき時も亦同じであります。

寄留地徴兵検査受檢願

本籍地外へ寄留して居つて、寄留地に於て身体検査を受けんと思ふ方は、一月三十一日迄に、寄留地の兵事官又は市長宛寄留地受檢通願を寄留地の市町村長に差出し許可を受けなさい、遅くなると許可されぬ事が有ります。

寄留地に於て簡閱点呼會

在郷軍人にして、寄留地に於て簡閱点呼を受けんとする者は、毎年三月三十一日迄に寄留地の聯隊區司令官に宛て、市町又は町村長及警察署長を経由し願書を差出さなければなりません。期限内に手續をして許可を受けなさい。

海軍志願兵検査

來る三月六日相樂郡木津町公會堂に於て海軍志願兵検査を執行されます。將來帝國海軍々人として、志を立てんとする青年は奮つて志願して下さい。

志願希望の方は役場へ來て下されば、いろく詳細に説明した、海軍志願兵の榮なども御渡しをたします。

志願書は検査前日迄に町役場を経て府知事宛差出せばよいのであります。

◎現役兵入營、入團

去る一月十日左記聯隊へ無事入營されま
した、又來る六月三十日に入團される豫
定者もあります。

入營されたる剛健の勇士に幸多かれと紙
上御祈り申し上げます。

東京鐵道第二聯隊 加藤 史郎

全 伏見騎兵第二十聯隊 市川 順次

伏見歩兵第九聯隊 歸郷木 村宗一

全 浦谷 隆男

(大阪市ヨリ) 福田 九壽穗

旅順重砲兵大隊へ入營さるべき西川要太

郎君は去る一月三日神戸市へ集合翌四日

身体検査の結果即日歸郷を命ぜられまし

た。

又吳海兵團へ入團者 北尾 清一

君は六月三十日入團の豫定です。



國 勢 調 査

結果報告

世帯數 全町に於て八百拾壹世帯

此 田邊區 參百九拾壹

を 薪 區 貳百拾壹

分 奥 區 壹百參拾四

て 河原區 七拾四

人口數 全町に於て參千四百六拾六人

男 壹千七百貳拾壹人

女 壹千七百四拾五人

此 各 區 分 別

田邊區	薪 區	奥 區	河原區
男 八百〇八人	男 四百四拾壹人	男 三百〇〇人	男 壹百七拾貳人
女 八百拾六人	女 四百六拾六人	女 貳百九拾壹人	女 壹百七拾貳人

編輯室より

我町小學校永年の宿望でありました、
ピアノ購入は町經濟先決の事情に餘義な
くされて、今日迄備へ付けが出来ず、常
に遺憾とする處でありましたが、今回別
項大江校長所報の如く、町出身諸氏の篤
志寄附に依り立派なピアノ一基購入を終
り、過日全校講堂に於て無滞開譜式を舉
げました。

校畔朗々たる調律は、サゾ兒童の精神善
導に資する處多かるべく、茲に篤志諸彦
の芳名を記し不取敢紙上に於て感謝の意
を表する事左の如し

左 記

- 一金貳百圓 井上春 三殿
 - 一金貳百圓 平田奈良 枝殿
 - 一金貳百圓 村田太 平殿
 - 一金貳百圓 村田 保殿
 - 一金貳百圓 吉山孝 一殿
- (次第不同)



稅 務

納稅に關しましては、毎號申上げて居り
まする爲に、茲に喋々を要さずとも皆様
がよく御承知の事と存じます。
不景氣の底をついております今日の公
私經濟狀態も多辯を勞す必要もありませ
ん。嗚かし種々御氣苦勞致されておる
ものと推慮しております。

然し昭和五年度の町稅徵收も大体終りま
した今日、愈々新年を期して滞納の整理
に取掛るべき運びになつております。
就きましては、皆様の内滞納の意志は
なくとも色々な關係上、不止得滞納され
ておる税金が残つております。
皆様の家庭經濟の窮迫と同じく、町經濟
の運用は納稅の如何に依つて、左右され
るのでありますから、此点に十分の御賢
慮を下さいまして此際至急に完納されん
事を紙上を以て御願ひ致します。

新年はお芽出度う御座います

- 吉山虎三 木口治夫
- 桐山徳重 西岡正延
- 市川米太郎 太田太一
- 村上竹次 河村啓一
- 國田正之 太田源吾
- 宮木彦治 上村新三